

ASCO'15 報告と関連する話題の紹介

本年も、米国シカゴにて、2015年5月29日—6月2日のスケジュールで米国臨床腫瘍学会（American Society of Clinical Oncology : ASCO）年會が開催された¹。今年のアSCOでは、免疫チェックポイント阻害剤を用いた新規の治療法（治療法の分類としては、がん免疫療法）による複数のポジティブな試験結果が発表されるなど、昨年までの分子標的薬による治療法の検討といった話題から、一気に話題の中心が変化した印象を受けた。一方で、必ずしも全ての患者に効果があるわけでもなさそうであるということ（治療効果予測因子の検討）、また、驚くほど高価であるという事（医療経済性の検討）といった点については、分子標的薬の時と同様、今後、多くの検討がなされることになると思われる。また、本年1月にオバマ大統領が発表した Precision Medicine Initiative^{2,3}の影響もあり、現在、実施されている遺伝子情報に基づく治療法の効率的な評価に関する教育セッションや、患者にとっての Value を意識した発表も多く、会場での議論も含め、がん領域での臨床試験の計画を考えるうえで参考になることもあった。

本抄読会では、ASCO'15での主な話題や個人的に興味を持った発表に触れ、必要に応じて関連する内容を追加で紹介する。

1. Official Website of 2015 ASCO Annual Meeting –Illumination & Innovation transforming data into learning. Available from: <https://am.asco.org/>
2. Collins FS, Varmus H. A new initiative on precision medicine. N Eng J Med 2015;372:793-5.
3. Jameson JL, Longo DL. Precision medicine – personalized, problematic, and promising. N Eng J Med 2015;372:2229-34.